

＜質的統合法（KJ法）分析スーパーバイズの実績＞

2019年度～2023年度

（2024年5月作成）

年度	方法	回数・頻度など		人数
2019	対面	数回（2～4回）実施		3名
		2-3回/月 （定期的に）	約1.5年（2020年11月まで）	1名
			約2年（2021年5月まで）	1名
2020	メール+Zoom （オンライン）	数回（3～8回）実施		6名
		2-3回/月（定期的に）	約1.5年（2022年7月まで）	1名
2021	メール+Zoom （オンライン）	数回（3～7回）実施		2名
		12-13回実施		2名
2022	メール+Zoom （オンライン）	6回実施		1名
		14回実施		1名
		2-3回/月 （定期的に）	約1.5年（2023年12月まで）	1名
			約2年（2024年4月まで）	1名
		1回程度/月	継続中	1名
2023	メール+Zoom （オンライン）	数回（5-6回）実施		2名
		2-3回/月（定期的に）	継続中	2名

＜方法論の支援や分析のスーパーバイズを行った主な研究論文＞

学位論文	修士論文（またはその一部）	6名
	博士論文（またはその一部）	2名
投稿論文		
• 金森弓枝, 守田孝恵（2021）	ケーススタディによる「地域組織活動を基盤に健康を保持する男性独居高齢者の相互交流」, リハビリテーション連携科学, 22（1）, 23-29.	
• 高比良祥子, 小林裕美（2021）	熟練看護師が外来で行う肝疾患患者への療養支援のあり様, 日本看護科学会誌, 41, 269-278.	
• 田邊綾子（2021）	家族介護者が離職し親の介護生活を確立するまでの経験, 日本健康医学会雑誌, 30（4）, 510-516.	
• 杉岡敦子, 小松光代, 杉原百合子, 小林裕美（2022）	急性期病院において認知症ケアを推進する看護師の活動上の障壁と克服過程, 日本看護科学会誌 42, 688-697.	
• 川口江美子, 水田真由美, 宮井信行（2023）	広域合併自治体における過疎地域での支所保健師活動の構造, 日本看護科学会誌 43, 458-468.	
• Yumie Kanamori, Ayako（2023）	Meaning of community activity participation for older adults in couple households, Internal Journal of Nursing Sciences, 10, 468-475.	
• 田邊綾子（2024）	仕事と親の介護を両立させた労働者の経験, 日本健康医学会雑誌, 33（1）, 116-124.	